◆ 荒木川流域は“国東の世界農業遺産”が凝縮した地域

国東市を流れる安岐川、その川に、河口間近で合流する荒木川は、源流域から河口まで約 10ｋｍという小河川だ。しかし、**【図５】**に示すとおり、源流域にはクヌギ林が広がり、その直下には、複数のため池群がある。もちろん上流域から下流域まで豊かな水田地帯が広がり、シチトウイ農家も 3 軒もある。まさに、この**世界農業遺産が“凝縮した地域”**だ。

この荒木川の下流に「三角ベース」の社会福祉の活動拠点がある。同時に、世界農業遺産の仕組みを活用し、流域の地域資源を活かすことをめざした「荒木川流域プロジェクト」現地事務局も担っていただいている。

「三角ベース」は、荒木川の源流域には現地作業所「山の家」を設けてクワなどを有機栽培、上流域ではビワも有機栽培している。また、同じく上流域で竹林の管理をしながら、竹資源を地域循環していく検討もしている。

さらには、昨年度から、地元キーパーソンや当研究会と連携･協働して、源流域の耕作放棄地を有機田に復活してきた。

このように、「三角ベース」が中心となって、「有機農業による農福連携モデル」事例を作り上げつつある。

近い将来、障がい福祉を対象とした「有機農業の多様なメニュー」を紹介することで、「農福連携」をバージョンアップし、有機 JAS 認証件数を拡大していきたい。

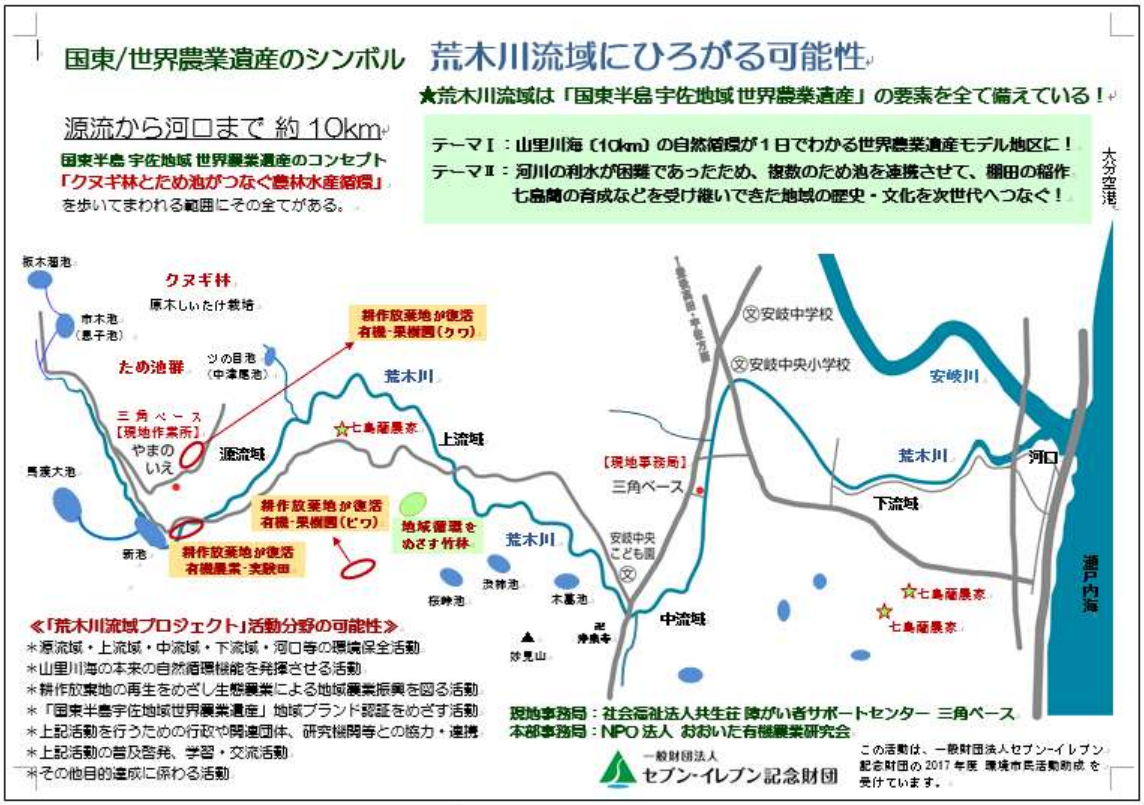

図5：荒木川における有機農業による「農福連携」モデル地区